

春は入学シーズン

小中高に新入生が



希望を胸に島から飛び立つ高校卒業生！(高校HPより)

平成12年の三宅島噴火により全島避難、17年2月に解除。帰島後の平成19年4月から、帰島児童が少なくなったため小・中学校各3校が伊豆の三宅小学校・三宅中学校各1校に統合され、昨年は、創立10周年をそれぞれ迎えた。今年度の学校関係の状況取材した。

三宅小学校(堅川浩校長)は、4月7日入学式で19人の1年生を迎えた。全生徒数は85人。中学校(大房裕司校長)でも同日入学式があり7人の新入生(3月の卒業生7人、全生徒数は29人。三宅高校(中間均校長)には、3月3日に会長と光安三宅支部長が訪問し、矢島副校長とお話した。

この時点で入学予定者は、普通

夏のイベント紹介

★7月は牛頭天王祭・他

神着の御笏神社で例年7月15日・宵の宮(夜の踊り)、16日・本宮(御輿が神着地区を日中練歩く)下旬の土・日に商工会主催のマリンスコール開催予定。現在検討中。

★8月は富賀神社大祭

今年は大祭、隔年で8月4日～9日の予定、御輿が全島を練り歩く。

富賀神社は、伊豆諸島の創造主である事代主命を祀り、三宅大社の本宮でもある神社。

今年の夏は、他にもアカコッコ館イベントなどある。ぜひ三宅島に足を運んでいただきたい。

着物のことなら

お祭りの浴衣・その他着物注文を承ります。着物の事なら何でも承ります。神着青年団祭り浴衣特約!

問合せ先; 光安千久子
携帯 080 (1192) 5459 まで

科4人、併合科3人で7人。3月の卒業生は10人で進学4人、専門学校1人、就職5人。28年度の全生徒は37人だった。矢島先生とのお話も弾み、不便な離島へ赴任していただいている先生、家族への三宅村・島民等「おもてなし」が気がかりなので、「家庭菜園」などで島の生活をエンジョイするお手伝い等できたらと話し、早速、光安さんが神着教職員住

宅(18戸)から近くの津村さんの協力を得て、空畑を無料で使わせてもらう手筈を整えた。先生ご夫妻もお喜びに。希望者を募ります。(連絡先は080 1192 5459 光安まで)。

素晴らしき子どもの感性

ふるさとネット宛に小・中の「学校だより」等頂いています。感謝申し上げます。中学校の教育目標に「ふるさとの発展に進んで貢献する生徒の育成」を掲げ、発表会などでの三宅島の発展、または問題点など子どもたちの率直な感性は素晴らしいです。先生たちの努力が見て取れます。今から10年前に、村と教育委員会の小・中学校統合村民説明会で意見を述べたことなど鮮明に記憶しています。「子どもたちは島の宝」です。先生方、PTAのご健闘を祈念しています。(佐藤)

三宅島新報

発行所: 三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒173-0005
東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人: 会長 佐藤就之

ご寄附のお願い

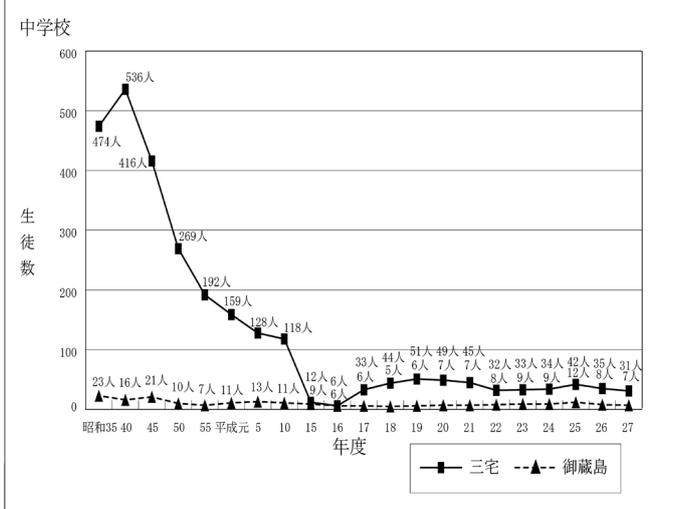
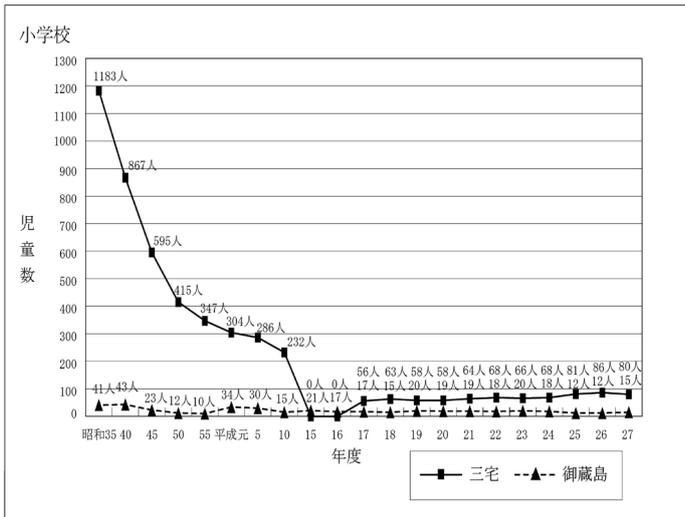
皆さまの日頃のご協力に心より感謝を申し上げます。ふるさとネットも結成から12年となりました。この間、皆さまのご理解のもとで今まで活動を続けることができました。10年間にわたる火山ガスの被害により、様々な規制や制限のもとでようやくガスの被害もなくなり、再生への努力を全島挙げて取り組んでいます。

今少し活動の継続をします。皆さまの温かいご寄附等のご支援をお願いいたします。

郵便振替口座
口座番号; 00120-3-545036
口座名称; 三宅島ふるさと再生ネットワーク

子どもたちの育つ島を

児童・生徒数の推移（平成27年度三宅支庁管内概要より）



アンケートをもとに

「三宅島新報」の発行も伊勢原にある「向上高校」卒業生による「DTPA」の皆さまの献身的努力により第65号の発行の運びとなった。感謝に

本紙ではこれまでも、島の抱える様々な問題を取り上げてきたが、その中でも特に深刻なのが人口減少の問題で、経済面にも大きな影響を与えている。三宅支庁の管内概要から島の子どもの数を見てみると、小学生の数はやや持ち直したものの、中学生は減少、高校生も伸び悩んでいる。高齢化率も高くなっており、自己責任ではすまされない状況があるのは確かだ。長期災害被災者として声を挙げ続ける必要があると考えている。

「どのような記事に注目していますか？」の問いに対して次のご回答を頂いた。
「たえない。昨年の7月に読者アンケートを実施した結果、皆さまの貴重なご回答を頂いた。」

- ・会長時評、村長指針、各職役長の負担など。
- ・会長時報は説得力がある。
- ・子どもの数、高校生の進路など。

自己責任政策では…

今回は新学期も始まっているので、子どもの問題を1面に一部紹介した

- ・長期的被災者の支援策、他の災害等に生かされた教訓。
- ・復興の様子がわかるもの。
- ・その他

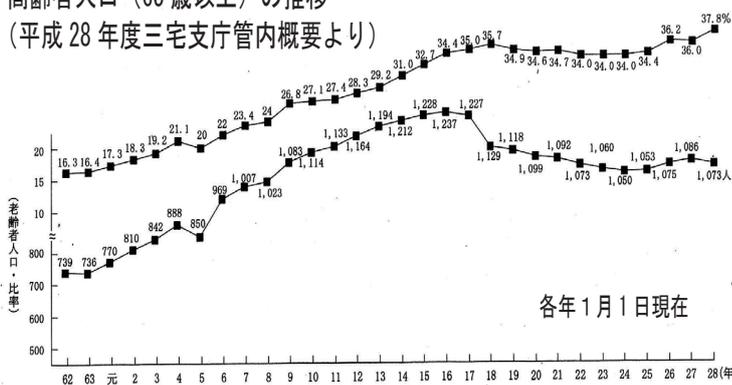
今後のこのアンケートの内容に沿って、努力を進めたい。

「自己責任」発言があり、4月25日辞任した。私も10数年前に三宅島でもあった「自己責任」論に強く抗議し反論して、新聞、テレビでも大きく報道されたことを思い出す。高濃度地区、高齢者、病弱者、職を失った者、とりわけ親子たちの「帰りたくても帰れない」現状は、福島と三宅島が共通する深刻な課題であり、「自己責任」政策では、復興再建は困難である。その原因はなにか。国と自治体に於いては被災者に対する姿勢、救済策は、いまだに変わりにないことに、怒りと悲しみを抱いて受け止めている。しかし、止まることなく被災者と被災地の絆を強くして、自然災害多発国日本の政治姿勢を変えたい。被災者の生活の自立再生のために、ひるまず努力をしてゆく、長い道のりを歩まなくてはならないのだ。

三宅支庁 管内概要より考察

深刻な人口減の影響

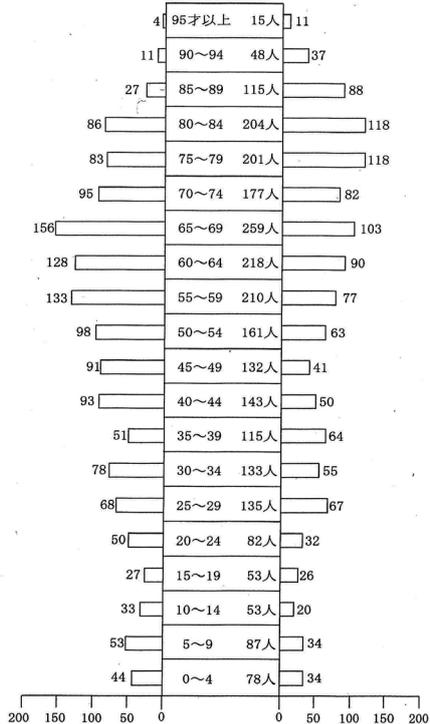
高齢者人口(65歳以上)の推移
(平成28年度三宅支庁管内概要より)



性別年齢別人口構成図(平成28年度三宅支庁管内概要より)

人口2,619人 世帯数1,699戸 平成28年1月1日現在

男 1,409人 女 1,210人



小学生数は持ち直し
さて、東京都三宅支庁のご協力を得て、平成28年11月発行の「平成28年度版管内概要」を基に現状を紹介したい。

「第8教育」、特に「児童・生徒数の推移」小学校、中学校のグラフを見てもらいたい。平成27年度版管内概要では、昭和35年は、小学生

1183人。37年、58年二度の噴火をへて良き時代や過去を振り返りつつ考えるために参考となるので紹介する。

1面で29年度の児童・生徒数を紹介したが念のため28年度は、小学生78人、中学生28人である。

平成12年噴火により9月の全島避難で児童・生徒は東京あきる野市の都立高校秋川校舎に集団疎

成17年2月1日避難指示解除・高濃度地区公示となったが、3年後の平成20年は小学児童58人から26年の86人をピークに低下したが今年85人と持ち直している。一方、中学生は平成20年の49人から低下傾向にある。

高校の生徒数も伸び悩んでいるが、三宅高等学校のホームページに3年間の進学、就職状況が大学名、企業名など具体的に紹介されている。

一時進学のために上京し内地の高校に行く人もあったが、この内容を見ると立派な大学や専門学校と大手の企業に就職している。高校の先生たち

帰島できなかった母親

さて、人口構成をみてみよう。全島避難の影響が顕著に表れている。例えば、平成28年1月1日現在では、男1409人、女1210人で、年齢別では45~49歳は、男91人、女41人である。帰島時には30歳代で子どものために、母親が帰島できなかつたのである。

通常は、女性人口が多いのであるが逆に増えている。しかも現在まで引

の努力には、敬服する。お金をかけ上京しなくても、三宅高校で十分に目的を達成することができると思う。

さすって、(3面参照・概要p22、性別年齢別人口構成図・平成28年1月1日現在)

人口問題は、商店主が売り上げ減少のため廃業の危機。農業・漁業人口も高齢化の影響。観光業も来島者が噴火前の8万人弱から平成18年の約4万人をピークに横ばい低下で、平成27年は3万6千186人となっている。人口減と産業振興の課題は、全国共通であるが三宅島の場合は、深刻な長期自然災害の復興・復興の困難な典型的例として、問題の提起を行う使命を帯びていると

早く忘れたい災害でもあるが、人として生きるために国・自治体の「最低の文化的生活の保障を定めた憲法の国民の権利」を求め、且つどのような努力を被災者としてなすべきかを発信することが大切だと強調して結びとする。

皆さまの忌憚のないご意見、ご指導ご鞭撻をお願いいたします。

ふるさと納税で島の支援を

商工会も新たな制度を検討・実施へ



ご寄付者名

吉田信行様、光安千久子様、吉島輝雄様、佐藤宗ノ子様、遠山定雄様、高橋民夫様、柚木裕子様、りぼん薬局様（三宅村）、板倉美紀子様（H 28. 12. 9～H 29. 4. 16）
皆様のご協力に深く感謝を申し上げます。

高濃度地区のがれきも撤去され、これから本格的な再生・復興ができるふるさと納税など更なるご支援を！

豪華な返礼品が問題になっているふるさと納税だが、三宅村にその影響がなく、純粋に支援をしようという人の善意が寄せられている。商工会でも会費制の新制度を検討しており、これらが今後更に島民の助けになることが期待される。

ふるさと納税に豪華な特産品などつき人気を呼んでいる。地方によっては納税にも影響がでいるため国では、豪華品については検討している。（但し三宅村はなし）。

寄附額のうち2千円を超える分については、所得税と住民税から原則として全額控除される制度（一定の上限有）。

三宅村では、ふるさと復興を応援していただく方から「三宅村ふるさと応援寄附金」として、産業の復興など6項目の目的を定めて受付けている。

注目の選挙

都議出馬の山下氏 その動向は…

「南海タイムス」や「東京七島新聞」によると、都選挙管理委員会には都議選（定数127）の日程を、6月23日告示、7月

平成27年度は、10人（匿名希望7名）が合計42万円の寄付を行っている。（広報みやけ28年9月1日号）

申込みは、簡単に三宅村ホームページ（Eメール miyake03@miyakemura.com）でも紹介。また電話等で、三宅村企画財政課財政係（T 100-1212 東京都三宅島三宅村阿古497番地 三宅村臨時庁舎

04994 5 0988）でも相談や資料等の送付について高齢者には親切に、説明してくれるようお願いしておいた。

三宅村商工会でも、産業・商業・観光振興の為に、「三宅村名誉村民制度」（仮）を予定では、年間会費2万円で、三宅島特産品送付、旅費運賃割引などの内容で、7月をめどに決めるために検討している。（問合せ 04994 2 1381）

2日（日）投票と決めたが、この都議選に、八丈町当選2期目で、現職では最年少の山下崇氏（44、総務文教委員長）が2月28日付で町議会を辞職した。

山下崇氏はすでに在籍していた自民党を離党、現職・三宅正彦氏と対決になる。また、山下氏は、「都民ファーストの会」の推薦を受けたとの情報もあり動向が注目される。

応援してみよう

体験型の新事業

三宅島新報第63号（平成28年10月1日発行）4面に寄稿して頂いた伊藤奨さんが「一般社団法人アットアイランド」を平成28年4月に設立した。

目的は、◎三宅島での体験型滞在コーディネート（例）個人旅行、ゼミ合宿、企業研修、キャンプ等 ◎三宅島への移住・定住・2拠点生活のサポート等を展開する。若者の三宅島での活躍を期待する。皆さんもお手伝いなどを利用して、応援してください。

三宅村神着106-3
04994 8 5860)

編集後記

三宅島新報の発行も65号になりました。記事にするため送っていただいた夏のイベント情報をみて、島の素晴らしさを感じ出し、また三宅に行く機会をつくりたいと思いました。（DTPA一同）